

第 5 学年 音楽科 学習指導案

【本時の主張】

児童は、10月に、音楽の仕組み（反復・変化）を生かしたロンド形式のメロディーをつくる学習を経験しているため、メロディーの横の流れに着目してメロディーをつくることはできる。しかしながら、横の関係（構成）だけでなく、縦の関係（音の重なり）にも着目し、音楽の仕組み（音楽の縦と横の関係）を意識しながら見通しをもってつくる姿までには、まだ至っていない。そのような児童に、本時では、音の重なりや曲の構成を生かして、友達とかかわりながら、重なりのあるメロディーをつくることができる力を身に付けさせる。そのために、次の手立てを講じる。

- ① 音の重なりや曲の構成といった「音楽の縦と横の関係」をとらえるための鑑賞活動を組織して、メロディーづくりの見通しをもたせる。
- ② 「記譜カード」を活用して、工夫したいところや修正したいところを明確にさせる。これにより、児童は、音の重なりや曲の構成の特徴に気付き、聴き取った音楽の仕組み（音楽の縦と横の関係）を生かしながら、見通しをもってメロディーをつくるようになる。

- 1 題材名** 「楽しく音楽づくり！ メロディーをつくろう Part 5」
教材 ファラドールのひみつを使って重なりのあるメロディーをつくろう
 「ファラドール～『アルルの女』第二組曲」（ビゼー作曲）＜鑑賞教材＞
 ヘルベルト・フォン・カラヤン／ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

2 題材の目標

- 旋律の特徴や音の重なり、曲の構成を聴き取り感じ取り、それを生かして、重なりのあるメロディーをつくって表現する。

3 題材の評価規準

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	5音を使ってメロディーをつくって表現する学習に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	音の重なりや曲の構成を聴き取り、その特徴やよさを感じ取りながら、それを生かしてどのようにメロディーをつくるかについて見通しをもってつくっている。	音の重なりや曲の構成を生かしながら、つくったメロディーを表現している。

4 題材と指導の構想

(1) 題材設定の理由

学習指導要領音楽科の主な改訂の要点の一つとして、音楽づくり（創作）の分野の内容の改善が挙げられる。「小学校学習指導要領解説音楽編」では、音を音楽に構成する過程を大切に、[共通事項]に示す音楽の仕組みを手掛かりにして、児童が見通しをもって音楽をつくるようにすることの重要性が示されている。実際、「小学校新教育課程教科・領域の改訂解説」では、これまで、創作の指導が十分ではなかったことを挙げ、「音楽をつくる活動が、効果音、擬音づくり等に偏っており、改善する必要がある」と述べられている。つまり、これまでの学習内容には、音を音楽へと構成する過程がやや欠落していたということがいえる。

音楽づくりの中でも特に、メロディーづくりにおいては、系統性・発展性を意識した学習内容が確立しているとはいえない。音楽づくり（創作）を学ぶことは、音楽の要素や構

造（仕組み）を理解することであり、さらに、音楽づくり（創作）・鑑賞、相互の関連付けを図ることで、その学習効果はより高まるものとする。

そこで、音楽づくり（創作）の学習の中でも、特に[共通事項]を意識したメロディーづくりの段階的指導法を構案した。それは、次に示した通り、小学校音楽科から中学校音楽科を貫いた9年間にわたる段階的指導法である。（省略）

現在は、この段階的指導法に基づいて、「Part 5 5音からなる旋法のメロディーづくり① ♪ロンド形式（反復・変化）」の授業まで実施してきている。そこで、今回は、第5学年における、「Part 5 5音からなる旋法のメロディーづくり② ♪「A→B→A→（C）→[AとBの重なり]（音楽の縦と横の関係）」の授業を提案する。それは、鑑賞活動との関連を図り、聴き取った音の重なりと曲の構成を生かして、重なりのあるメロディーをつくって表現する授業である。

学習指導要領における関連事項は、次の通りである。

表現（3）イ 音を音楽構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

[共通事項]（1）ア（ア）音の重なり （イ）音楽の縦と横の関係

特に今回の題材で扱う[共通事項]の「音楽の縦と横の関係」は、中学校音楽科では、「テクスチュア」という。この「テクスチュア」とは、「中学校学習指導要領解説音楽編」によると、「音と音とが同じ時間軸上で垂直的にかかわったり、時間の流れの中で水平的にかかわったりして、織物の縦糸と横糸のような様相で様々な音の織りなす状態」とされている。

一方、「中学校学習指導要領音楽科」では、[第1学年][第2・3学年]いずれにおいても、明確に「旋律をつくる」とうたっている。そこで、小学校音楽科の音楽づくりから、中学校音楽科の創作「旋律づくり」へと、段階的にうまくステップアップさせていく必要があると考える。

「新学習指導要領に対応した、小学校音楽づくりガイドブック」では、その必要性について、次のように述べてある。

小学校・中学校の連続性・一貫性ということを考えるならば、中学校の「創作」において重要な位置を占める「旋律創作」にどのようにつないでいくのかということが、小学校における「音楽づくり」の学習に求められてくる。

そこで、小学校においては、音階の特徴を捉えた旋律づくりとして、例えば、限定された3音あるいは5音の中から音を選んで行う旋律づくりなどが考えられる。

したがって、小学校音楽科の段階でも、音楽の仕組みに基づいてメロディーをつくることのできる力を身に付けさせていくことが重要であるとする。そこで、5年生後半で6年生へと向かうこの時期に、中学校の学習内容を意識した、「音楽の縦と横の関係」を核としたメロディーづくりの学習を取り扱うことで、小学校音楽科から中学校音楽科へのつながりを確かなものにする可以考虑、本題材を設定した。

(2) 題材・教材と児童

児童は、5年生になるまで、上記のようなステップを踏んだメロディーづくりを学習した経験はない。その実態を踏まえて、5年生の4月から9月にかけて、「Part 1」「Part 2」

「Part 3」「Part 4」の学習を、一単位時間、あるいは音楽の授業の一部を活用して行ってきた。また、音楽の仕組みである「反復」「問いと答え」にかかわる、2音や3音の即興表現については、毎時間、音楽の授業の始まりや終わりの帯の時間として、継続的に行っている。このように、4月から「Part 1」から順に学習を積んできた児童は、10月には、「Part 5 5音からなる旋法のメロディーづくり① ♪ロンド形式（反復・変化）」の授業で、聴き取った音楽の仕組み、ロンド形式（反復・変化）を生かしたメロディーづくり

の学習を経験した。このような児童に、今回は、「Part 5 5音からなる旋法のメロディーづくり② ♪「A→B→A→(C)→[AとBの重なり] (音楽の縦と横の関係)」を題材とした授業を組織する。

本題材における鑑賞教材は、「ファランドール～『アルルの女』第二組曲」(ビゼー作曲)である。この教材は、「A→B→A→(C)→[AとBの重なり]」と進む楽曲の構成をもつため、音の重なりと曲の構成、すなわち、音楽の縦と横の関係(「ファランドールのひみつ」とする)をとらえやすい。また、A、B二つの旋律の特徴も、なめらかな感じとはずんだ感じであるため、その特徴をとらえやすい。このような観点から、音の重なりと曲の構成を聴き取る手掛かりとして、「ファランドール～『アルルの女』第二組曲」を鑑賞教材として活用することは、有効であると考えた。

(3) 指導と評価の計画 (全3時間 本時 2/3)

時	ねらい・学習活動	教材	評価項目及び評価方法
1 時	ねらい：5音からなる旋法のメロディーをつくって表現する。 ○ 即興表現をする。 ・2音、3音、4音、5音と、音を増やしながらメロディーをつくって即興表現をする。 ○ 5音(ド、レ、ミ、ソ、ラ)を使って、メロディーをつくって表現する。(鍵盤ハーモニカ、リコーダー) ・表したい感じになるようにメロディーをつくり、記譜する。 ・リズムやメロディーの流れを意識しながら、表したい感じに合ったメロディーができたかどうか聴き合う。		【関心・意欲・態度】 ・つくったり演奏したりしている時の様子 ・記譜カードの記述
2 本 時	ねらい：音の重なりや曲の構成を聴き取り、その特徴やよさを感じ取りながら、それを生かし、見通しをもって重なりのあるメロディーをつくる。 ○ 前時でリズムやメロディーの流れを意識してつくったメロディーをリレー奏する。(鍵盤ハーモニカ、リコーダー) ○ 鑑賞活動を通して、「ファランドールのひみつ」を聴き取り感じ取る。音の重なりや曲の構成を聴き取り、どんな特徴やよさがあるのかを感じ取る。 ・二つのメロディーA、Bを聴き取り、その特徴を感じ取る。 ・A、Bそれぞれが出てきたら、指サインを示すことで、曲の構成をとらえる。 ・同時に二つの指サインをすることで、二つのメロディーの重なりをとらえ、重なり合いの美しさやよさを感じ取る。 ○ 「ファランドールのひみつ」を使って、重なりのあるメロディーをつくる。 ・A、Bの役割を決め、ペアでメロディーをつくる。 ・どちらの役割も体験してから、雰囲気合う方を決める。	鑑賞教材： 「ファランドール～『アルルの女』第二組曲」(ビゼー作曲)	【創意工夫】 ・指サインをしている状況 ・挙手や発言の内容 【創意工夫】 ・つくったメロディーの演奏聴取 ・記譜カードの記

	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の縦と横の関係に着目しながら修正をする。 ○ つくったメロディーを聴き合う。 	述 ・話合いの様子
3 時	ねらい：音の重なりや曲の構成の特徴を生かしながら、つくったメロディーを表現している。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ファランドールのひみつ」を使ってつくった重なりのあるメロディーを発表し合う。 ・ A, Bの役割や修正したところを評価し合う。 ○ 「ファランドール～『アルルの女』第二組曲」で、メロディーの重なり合う美しさを聴き味わう。 	【技能】 ・演奏の聴取

5 本時（2／3）

(1) ねらい

- 音の重なりや曲の構成を聴き取り、その特徴やよさを感じ取りながら、それを生かし、見通しをもって重なりのあるメロディーをつくる。

(2) 指導の構想

① 音楽の仕組み「ファランドールのひみつ（音楽の縦と横の関係）」を聴き取らせるための鑑賞活動

「ファランドール～『アルルの女』第二組曲」（ビゼー作曲）の鑑賞活動を通して、「ファランドールのひみつ」である音楽の縦と横の関係を聴き取らせる。ここでの「音楽の縦」とは、二つのメロディー AとBの重なりである。また、「音楽の横」とは、「A→B→(C)→[AとBの重なり]」と進む曲の構成である。二つのメロディーそれぞれがきこえてきたら、手を挙げて指サインで合図することで、二つのふしを聴き取ったり、出てくる順序をとらえさせたりする。「ファランドールのひみつ」特に「A→B→(C)→[AとBの重なり]」の曲の構成については、しっかりと共通理解を図る。その際、聴き取ったり感じ取ったりしたことを音楽の言葉を使って伝え合ったり、一緒に口ずさんで確認したりするなどのかかわり合いを大切にしていく。

② 聴き取ったことをメロディーづくりに生かすための記譜カードの活用

鑑賞活動を通して聴き取った「ファランドールのひみつ」音楽の縦と横の関係を手掛かりとして、つくったメロディーのつなげ方や重ね方を考えさせるようにする。ペアで、Aの役割、Bの役割を決めて、どのようなつなげ方や重ね方をするとよいかを話し合わせる。ここでは、聴き取った仕組み「A→B→[AとBの重なり]」という構成で音楽をつくっていくことを基本とする。途中できこえてくるCのメロディーについては、さらに新たなメロディーをつくることになるので、今回は扱わないものとする。また、つくった音楽を聴き合うことで、メロディーの流れや重なり方について相互評価させる。それによって、思いや意図に合わせてつくったメロディーを修正するようにさせる。例えば、横の流れが気になる場合は、Aの役割とBの役割を変えたり、気になる音を別の音に変えたりする修正、あるいは重なり合う響きに満足がいけない場合は、その部分の音を別の音に変えるといった修正である。こうして友達とかかわって修正することで、つくったメロディーをさらによりよく練り上げていくことができると考える。

(3) 展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	留意点・評価
1 前時で作った	○ この前つくったメロディーを吹いてみましょう。	・記譜したものを基に、リレー奏させ

<p>メロディーを確認する。 (6分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムやメロディーの流れに気を付けて吹こう。 ・楽譜をよく見て、雰囲気合うように吹いてみよう。 	<p>て確認する。(鍵盤ハーモニカ、リコーダー)</p>
<p>2 二つのメロディーの重なりや曲の構成を聴き取り、その特徴やよさを感じ取る。 (16分)</p> <p>♪「ファランドンール～『アルルの女』第二組曲」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「ファランドンールのひみつ」を使って、もっとすてきなメロディーをつくりましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ファランドンールのひみつ」ってどんな音楽の仕組みかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じメロディーの繰り返しかな。 ・ロンド形式みたいなものかなあ。 ○ その音楽の仕組みをつかむために、これから、ある音楽を聴いてみます。この音楽から、二つのメロディーがきこえてきます。どんなメロディーか、よく聴き取りましょう。(二つのメロディーがきこえてくるところまで) <ul style="list-style-type: none"> ・堂々としていてなめらかな感じだな。 ・リズムが細かくて、少しはずんだ感じだな。 ○ この後、AとBのメロディーはどのように進んでいくと思いますか。この続きを聴いてみましょう。(最初から最後まで) <ul style="list-style-type: none"> ・AでもBでもないメロディーが出てきたぞ。 ・最後にはAとBはぴったりと重なり合っていたぞ。すごい。 ○ 二つのメロディーが重なり合うとどんな感じがしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・一つの時よりも迫力がでてくるな。 ・重なり合うときれいだな。 ○ これが「ファランドンールのひみつ」だったので、みなもこのひみつを使って、重なりのあるすてきなメロディーができないかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・AとBのメロディーがあればできるな。 ・二人のメロディーを同時に演奏すれば、重なりができるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロズさんたり、教師がピアノで弾いたりしながら、それぞれのメロディーの特徴をとらえさせる。 ・二つのメロディーA、Bの進み方や重なり方を聴き取らせて共有化する。 ・曲の構成と重なりについて、指サインで示させる。 ・音楽の要素や仕組みを示す言葉で語らせる。 ・AとBが、その後どのように進んでいくのかを予想させてから聴かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【創意工夫】</p> <p>A：指サインを正しく挙げて、構成と重なりを聴き取ることができる。</p> <p>B：友達の見解を参考にしながら指サインをして聴き取ることができる。</p> <p>※Cと判断される児童には、傍で一緒に聴いて考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「A→B→[AとBの重なり]」の構成でつくることを共通理解する。(Cは扱わない。)
<p>3 聴き取り感じ取ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ファランドンールのひみつ「A→B→[AとBの重なり]」を使って、重なりのあるメロディーをつくってみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の縦と横の関係に着目して修正している事例を取

<p>を生かして、重なりのあるメロディーをつくる。 (18分)</p>	<p><音楽のつなげ方(横)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A→B→[AとBの重なり]」の進み方で、AとBのどちらをやるかを決めてつなげていこう。 ・AとBの役割を交代してやってみて、雰囲気合うなどと思う方で、A、Bの役割を決めていこう。 ・なめらかな方をAにして、はずんだ方をBにしよう。 ・二人でタイミングに気を付けて、吹いて合わせてみよう。 <p><音楽の重なり(縦)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな重なりになっているか、聴き合ってみよう。 ・音と音がぶつかり合う感じにならないように、別の音に変えてみよう。 ・もっときれいな響きの重なりになるように、直してみよう。 ・他の友達の工夫が参考になったので、わたしたちのメロディーづくりにも取り入れていこう。 ・メロディーが出てくる順序と、メロディーの重なっていく感じが雰囲気に合っていてよくなってきたぞ。 	<p>り上げて紹介し、共有化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロディーのつなげ方(構成)や重なりについて、思いや意図に合うように修正させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【創意工夫】</p> <p>A: メロディーのつなげ方(構成)や重なりを意識した修正をしている。</p> <p>B: メロディーのつなげ方(構成)や重なりに着目して、どちらのメロディーがA、Bの役割をするとよいかを考えながらつくっている。</p> <p>※Cと判断される児童には、友達の意見を参考にさせたり、聴き取ったことを、板書で再度確認したりして考えさせる。</p> </div>
<p>4 重なりのあるメロディーを全体で聴き合う。 (5分)</p>	<p>○ 「ファランドールのひみつ」を使ってつくったメロディーをみんなで聴き合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファランドールのひみつ」を使って、二つのメロディーをつなげて合わせると、こんなにすてきなメロディーになるんだな。 ・雰囲気に合うようにメロディーを直したら、もっときれいな重なりができてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫や修正について述べてから演奏させる。 ・「ファランドールのひみつ」である音楽の縦と横の関係を意識してつくと、豊かな重なりのあるメロディーができることを共感させる。